



## ②. 取組の成果 【1 ページ以内】

### (1) 「正しい食への誘い」プログラム

平成 21 年度は、教員 12 名（1 回目 9 名、2 回目 2 名、3 回目 1 名）により、新入生 1,800 名に対しオムニバス形式の授業を行った。

また、Web 上で食事バランスチェックを実施した結果、平成 21 年度は 75%、平成 22 年度は 90%の学生がそれぞれ入力し、栄養のバランスを考えて食べている学生が増加傾向にあった。この中から、食に関して問題のある学生に対し個別指導を行い（平成 21 年度 75 名、平成 22 年度 60 名）、これにより学生の食習慣が改善された。これらの学生については、今後も継続して定期的に指導を行う予定である。

このほか、「調理ができない」学生が多いため、授業以外に「オフィスアワー」を設定（木曜日 5 限/月）し、HP で呼びかけて調理実習を実施し、授業受講前後には「食」に関する授業の必要性についてアンケートを行い、その結果、受講前は食に関する関心度は 42%であったが、受講後は 87%となり、食に対する認識が高まったことが解った。

### (2) 「愛媛大学食育士」プログラム

ステージ 1 の受講申込者数（受講者数）

平成 21 年度 177 名（112 名）

平成 22 年度 152 名（98 名）

受講学部：工学部、理学部、農学部、教育学部、法文学部、医学部など

ステージ 2 各授業受講者 25～40 名

受講学部：農学部、法文学部

※食育士認定は平成 24 年度末

### (3) 本取組が学内外に与えた波及効果

企業との共同商品開発や食育シンポジウムの開催により、本学の食に関する取組を広く社会に提供することができ、愛媛県や松山市をはじめとした自治体や栄養士会から「食」に関するイベント等への参加要請があった。また、愛媛県下の幼稚園・小中高等学校及び県外の高等学校や大学から、「食育」プログラムに関する問い合わせや取組の紹介依頼があった。このほか、シンポジウム等の内容を HP で公開することで、シンポジウム等に参加できなかった学生や一般の人にも、情報を提供することができた。

### ③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

本取組については、健康部会、食育担当部会及び外部委員を含めた評価委員会において、学生が毎年、年2回入力する食事バランスチェック（栄養バランス、食事時間など）の入力状況や、各授業が終了した後に実施する認定試験（学習成果の発表）の結果及び授業評価アンケートの結果を基に、以下のような評価・改善を行った。

#### (1) 正しい食への誘いプログラム

##### ① 食事バランスチェックの見直し

現在、食事バランスチェックは学内のパソコンからのみ入力が可能である。しかし、法文学部の夜間主の学生は入力が困難な面があるため、外部からも入力できるようにシステムの見直しを行っている。

##### ② 担当教員の伝達の徹底

愛媛県職員に授業の一部を依頼し、1回目の授業は9名で17回を担当していただいたが、勤務地等が離れていることから連絡調整が困難であった。

そこで、授業担当者全員を交えた会議を年4回開催し、担当授業、授業内容及び次年度のカリキュラム等について打合せを行った。

#### (2) 「愛媛大学食育士」プログラム

##### カリキュラムの見直し

学生から、他の授業や実験等と重なって受講できない、授業を開講している場所（キャンパス）が離れていて受講できないといった意見があり、5限目に食育士の授業を開講したり、集中講義の科目を増やしたりすることで、どの学部の学生も受講できるよう配慮した。

平成23年度入学者からは、ステージ1は2科目（3単位）、ステージ2は1科目（2単位）、ステージ3は3科目（6単位）、ステージ4は4科目（5単位）に変更した。

**④ 財政支援期間終了後の取組 【1 ページ以内】**

平成 23 年度以降については、「正しい食への誘いプログラム」は現状どおり、「愛媛大学食育士」プログラムはカリキュラムを 20 科目 23 単位から 10 科目 16 単位に変更し、大学の自主財源によって事業を継続して行く予定である。

2. 取組の全体像 【1ページ以内】

